

日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red

Cross Kyushu International College of

Nursing

いかに学生の英語リスニング能力を向上させるか：  
TOEICリスニング・セクションPart  
II及びIIIによる試み

メタデータ	言語: ja 出版者: 日本赤十字九州国際看護大学 公開日: 2013-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 徳永, 哲, 江口, 雅子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15019/00000265">https://doi.org/10.15019/00000265</a>

著作権は本学に帰属する。

# いかに学生の英語リスニング能力を向上させるか： TOEICリスニング・セクションPartⅡ及びⅢによる試み

How Could the Students' Listening Comprehension Ability Be Improved? : An Investigation of Strategies Using TOEIC Listening Sections Part Ⅱ and Ⅲ

徳永 哲

Satoshi Tokunaga,

江口 雅子

Masako Eguchi

日本赤十字九州国際看護大学

The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

## 要約

本研究は学生の英語リスニング能力を向上させるのに、いかにTOEICのリスニング・セクションPartⅡ及びⅢの問題が使われうるか考察するものである。応答問題のPartⅡ及びⅢの問題を取り上げるのは、コミュニケーションの場における実践につながるリスニング能力を向上させることができ、自然なコミュニケーションにおける応答能力を強化することになると考えられるからである。しかし、リスニング能力に関してまだ未熟な段階にある学生に対してTOEICレベルの問題をさせてみても、リスニング能力が向上するのは非常に難しいと思われる。ではいかにすれば能力向上につなげることができるか。私たち徳永と江口は共同してその方法を研究し、さらに学生に情報提供者になってもらってデータをとって研究を実践した。その研究と実践および結果をここにまとめた。

データの対象は2年生のセミナー・グループから成る11名の学生である。データは、リスニング・スキルに関するセルフ・レポート(授業による、学生の進捗状況)から成る。

授業はリスニング能力向上の為の方法として、3つの活動を取り入れた。1) Warm-up Activity 2) Listening Activity 3) Check-up Activityである。Warm-up Activityでは、事前に学生にヒントを与えた。Listening Activityでは、ディクテーションによりPartⅡ及びⅢの質問文を書きとらせてから、問題のリスニングに集中した。Check-up Activityでは、学生の答えを正し、リスニング能力をチェックした。データとして、週1回の授業で13回

分のリスニング・スコアを集積した。

冬休みが終わってから、学生にアンケートに答えてもらった。アンケートは、日頃の英語との取り組み方と冬休みのリスニングの宿題との取り組み方に関するものである。アンケートから得たデータによると学生がリスニングに費やした時間はさまざまだった。

1月中旬に、再び、学生に同じ練習問題を解いてもらった。受講生の内、5名の学生が、10%から20%の範囲内で、正解率を上げた。5名の中で最も正解率が高かった学生は、70%以上の正解率だった。その学生は冬休みの間、毎日、宿題として課したTOEIC Part II 及び III の応答問題を長い間、聞いていたことがわかった。

我々は練習問題と学生に課した宿題からいい結果を得た。又、長い間、応答問題を聞き続けた結果、一つ一つの単語を聞き取るレベルを超えて、対話全体を聞き取れるレベルになり、リスニング能力が伸びたこともわかった。

キーワード：TOEICリスニング・セクションPart II 及び III、疑問文（疑問詞及び助動詞ではじまる疑問文）、ヒント、ディクテーション

#### ABSTRACT

The purpose of the present study was to understand how the exercises in the TOEIC Listening Sections Part II and III can be useful to improve students' listening comprehension ability. The reason why we took up the question-response exercises in TOEIC Part II and III was that we should be able to improve listening ability through the practice of communication and the ability to reply or to respond should be strengthened during natural conversations. It seems, however, that it is very difficult for the students at the first-step level on listening ability to make progress from working on TOEIC level exercises. Then we asked the question: how can we lead them to improve their ability? Tokunaga and Eguchi cooperated to attempt finding a method for improvement. We collected data from students and studied the results. The following is our study, the research, and results.

Second-year students' seminar group including 11 students gave us their information that was comprised of their self-reports on study skills.

In class we had three activities as the method for the improvement of their listening comprehension: 1) warm-up activities, 2) listening activities, 3) check-up activities. In the warm-up activities, the students were given some hints in advance. In the listening activities, we had them do dictation exercises from the interrogative sentences contained in Part II and III of the TOEIC examination where they concentrated on listening. In the check-up activities, they corrected their answers and checked their listening ability. We collected their listening scores of thirteen units in once-a-week class as data.

When the winter vacation was over, we gave the students questionnaires. The questionnaires were about how they always tried to listen to English and how they did their homework on listening during the vacation. The data that we got from the questionnaires told us that the time they spent on listening was all different.

And we gave the same exercises to the students again in the middle of January. Five of the students raised the rate of correct answers within range between 10 and 20 percent. The rate of correct answers that the best student among the five got was more than 70 percent. She spent long time on listening to the question-response exercises in TOEIC Part II and III that we had given to them as a homework everyday during the winter vacation.

We had a good result from the exercises and the homework we had given to the students. And we could also find that, after they had passed through the question-response exercises for a long time, their listening skills went up to the level of dialogue comprehension beyond that of individual word recognition.

Key Words: TOEIC Listening Sections Part II and III, interrogative sentence (begins with interrogative and auxiliary verb), hint, dictation.

## 緒言

LL教室は、授業の場であり、学生個々人の自習の場であり、英語に関する相談を受ける場でもある。本学の学生からの相談で多いものから挙げると、①リスニングの力を伸ばしたい(ほとんどの相談がこれに当たる)②スピーキングの力を上げたい③TOEICに関するもの④英検に関するもの、ほぼ以上の項目である。本研究がリスニング能力に焦点を充てているのは、まず、学生のリリスニング力を伸ばしたいという要望が多いこと、そして言葉のコミュニケーションにはリスニング能力が基本となるからだ。コミュニケーションの場を考えると、相手の言ったことに応答するには、まず聞き取れることが大切である。即ち、コミュニケーション能力の向上に、リスニング能力が重要であると考え。又、「聞く力は話す力の潜在力となり得ると考えられる」<sup>1)</sup> ことから、リスニング能力を向上させることは、スピーキング能力を向上へと導く、相乗効果を得られる基本となり得る。

研究目標を達成する手段・方法としては、LL教室の機能を活用し、LL教室において、授業及びリスニング・マラソン(学生の空き時間を利用した講座)の指導を行う。研究成果及び学生から得られたデータの考察によって、学生がリスニング能力を向上させた要因を探る。

## 1. 研究の姿勢

TOEICを使用する姿勢について述べる。リスニング能力が向上すれば、TOEICのスコ

アも上がり得るであろう。が目的はスコアを上げる為の側面ではなく、TOEICのリスニング問題を通して、コミュニケーション能力、特にリスニング能力を伸ばす為の側面、その姿勢からTOEICを取り扱うこととする。

## 2. TOEICリスニング・セクションPart II 及び III にフォーカスする理由

### 1) TOEIC Part II 及び III の形式

まず、TOEICリスニング・セクションPart II 及び III がどういう問題であるのか説明する。Part II は三肢択一問題である。短い問い掛けの質問と、それに対する応答として選択肢 (A) (B) (C) の3つの英文が1回だけ放送される。問題用紙には、質問文も選択肢も印刷されていない。受験者は、その3つの選択肢の中から応答として最も適切なものを選択することが求められる。Part III は四肢択一問題である。2人の話し手AとBによって展開される[A→B→A]というパターンの短い会話が1回だけ放送される。会話は問題用紙には印刷されていない。受験者は、問題用紙に印刷された質問文と選択肢 (A) (B) (C) (D) の4つの中から最も適切なものを選択することが求められる。<sup>2)</sup>

### 2) 理由への考察

Part II 及び III の共通点は、質問文に対して適切な応答を選ぶところにある。ここで、リスニング・マラソンにて考察したことが理由に対する関わりを持つ。第4回リスニング・マラソン1回目の出席者3名が共通に間違えた問題を見てみる。問題形式はTOEIC Part II である。

例1. May I empty your wastebasket?

- (A) We need to cut down on waste.
- (B) Yes. I do have an empty feeling inside.
- (C) That would be nice. <sup>3)</sup>

正解は (C)。例1から、助動詞で始まる疑問文を集めた問題に慣れる必要があることがわかる。

例2. Are you going to the game tonight?

- (A) I wouldn't miss it for anything.
- (B) The game starts at 7:00.
- (C) No. I hate television. <sup>4)</sup>

正解は (A)。例2から、自然な会話の流れの応答に慣れる必要があることがわかる。

例3. Where is this year's company picnic?

- (A) It has not been announced yet.
- (B) Just bring a salad.
- (C) We usually eat, drink and play volleyball. <sup>5)</sup>

正解は (A)。例3 から、whereと聞かれたら、場所の名称で答える、という公式通りの応答ばかりが、自然な会話であるわけではない、ということを知る必要があることがわかる。

### 3) 理由

2) で考察した必要性を満たす為には、自然なコミュニケーションにおける応答能力を強化するTOEICリスニング・セクションPart II 及びIIIを使用することが効果を上げると考える。又、コミュニケーションの場における実践につながるリスニング能力を向上させることができる。以上のことにより、応答が基本とも言える会話への適応を踏まえて、TOEICリスニング・セクションPart II 及びIIIにフォーカスする。

## 3. 研究方法

### 1) 対象

リスニング・マラソンの場合は、その都度、希望者による参加であるので、同じ学生を一定期間通して、観察することは不可能である。その為、対象は、同じ学生が毎週受講する後期の2年生のセミナーによる学生11名とした。

### 2) 教材

授業及び冬休みの宿題としての家庭学習で扱った教材を紹介する。

① 『ロングマン完全パックTOEIC TEST入門編』. 2001年. ピアソン・エデュケーション. (Part II) .

② *TOEIC SHORT LISTENING COURSE*. George W. Pifer著. 2001年(重版). SEIBIDO. (Part II 及びIII) .

③ *Steps to Success in TOEIC Listening 400*. David E. Bramley, Tadahito Kawai 著. 2002年. SHOHAKUSHA. (Part II 及びIII) .

### 3) 研究資料及びアンケート

研究資料及びアンケートは、名前を書くことに応じてくれた者には名前で残すが、名前を希望しない者には、本人のみの知る記号及び番号で保存することによりプライバシーを保護することとした。収集したデータは3種である。

#### ① 正解数シート

TOEICの問題を解答した際の、正解した問題番号、選んだ選択肢の記号、ディクテ

ションの正解した箇所を記入したもの。尚、ディクテーションのスペルミスの箇所も記入。学生の進捗と間違える傾向のある問題を把握するためのもの。

#### ② リスニング時間記録表

冬休みの宿題としての家庭学習として、リスニングの宿題を行った日付、聞いた所要時間、聞き方を記入したもの。

#### ③ アンケート

リスニングに関するアンケートを作成し、記入してもらった。アンケートの内容は後述する。

### 4) 聞き取る為の課題

#### ① 課題を与える理由

リスニング問題を解く場合、ただ、漠然と聞いていても意味がない。課題を持って聞くことが大切である。リスニング・マラソン実施により考察したことは、whoで始まる疑問文の質問に対して、誰がとは関係ない答えをしたり、whenで始まる疑問文の質問に対して、時とは関係ない答えを選んだりということが多々ある。その対応として、例えばwhoで始まる疑問文ばかりを集めた質問文の問題ばかりを続けて何問も答えさせる、つまり学生はこれからテープで流れる質問文はwhoで始まると知った上で、聞くことを課題とする。質問文をいくつかに分類し、その分類ごとに聞くことにする。分類して聞くことにより、各種質問文の応答の特徴をとらえさせる。この課題を持って聞くことにより、会話の応答能力を伸ばしていく。

#### ② 課題の分類

- ・ Where Question (場所を聞き取る)
- ・ Why Question (理由を聞き取る)
- ・ What Question (何かを聞き取る)
- ・ When Question (時間・年月を聞き取る)
- ・ Who Question (人名・職業名を聞き取る)
- ・ How Question (数や頻度、期間を聞き取る)
- ・ 助動詞で始まる疑問文を聞き取る
- ・ Yes/No疑問文と答え方
- ・ 付加疑問文と答え方
- ・ 否定疑問文と答え方
- ・ 疑問文の形をした慣用表現と答え方<sup>6)</sup>

### 5) 授業の進め方

課題を持った授業に、リスニングのテープを聞く前、聞いている最中、聞いた後と、

3つの活動を取り入れた。Warm-up Activity、Listening Activity、Check-up Activityである。

①Warm-up Activity

学生に、事前に、リスニングの為のヒントを与えた。ヒントは、予測不可能と思われる、語彙の説明という形で与える。田島穆(きよし)によると、自然のコミュニケーションでは内容について何らかのヒントが与えられている場面が多く、それが理解を助けていると言える。聞き取りの練習の場合も、ヒントを与えられ、内容を推測することにより、内容についての興味が湧くとある。<sup>7)</sup>例えば、実際の話し手には、どこで話しているか、当人同士にはわかっている。従って、例を挙げるとTOEICのリスニング問題の場合も、どこで話された会話を推測させる知識、ヒントを与えるのは、聞き取りの練習において、興味が湧くと共に効果が上がるであろう。

リスニングに推測力を働かせることの必要性を説いたものに、R.C.スカーセラ/R.L.オックスフォードによるものがある。「リスニングには推測が不可欠である。学習者は、次に何が表現されるかを予測する必要があるが、そのことによって、彼らはコミュニケーションの流れについて行くことができる。学習者は、最終的に、その予測が間違いであることが証明されれば、そのギャップを調整し、解決しなければならない。」<sup>8)</sup>

ここで、ヒントとして事前に語句の説明を行った実際の授業のデータを挙げたい。PartⅢの問題である。

A: Have time for a beer or do you have to get back to the hospital?

B: Sure, but I want to shower and take a quick sauna. It shouldn't take more than half an hour. Wait for me in the clubhouse.

A: OK, I'm going to look at some new putters in the pro shop.

Question: Where will they meet?

(A) In a bar (B) At the hospital (C) In the clubhouse (D) At the sauna<sup>9)</sup>

正解は(C)。この問題では、clubhouseが何であるのかわかると、Wait for me in the clubhouse.の予測がたつことから、clubhouseの説明を事前にしておいた。ちなみに、clubhouseとはスポーツクラブのメンバーが社交の場として会う場所として使ったり、くつろぐ為の建物で、特にゴルフ場によくある。又、ゴルフ場のクラブハウスでの会話であることを予測しながら聞けるように、putterがゴルフのパット用のクラブ、パターであることも事前に説明しておいた。実際の会話ではゴルフ場で話していることがA、B当人にはわかっている。学生に聞かせる際にも、ゴルフ場での会話とわかるヒントを事



前に与え、会話の内容を推測させる手助けをするのは、有効である。実際、11名中10名がこの問題を正解している。ヒントの手助けにより、聞き取れることを実体験し、英語を聞き取ることへの励ましと前向きな動機となるであろう。ただ、ここで、予測可能な語句のヒントは必要ないということも言い添えておきたい。

## ② Listening Activity

リスニングの際に、ディクテーション(書き取り)を取り入れた。ウイルガ・M・リヴァースによると、「ディクテーションは、生徒が音の識別をある程度学んだかどうかを確かめる有効なテクニックである。」<sup>10)</sup> ディクテーションには2種類のタイプを用意した。

A. 疑問詞別の質問文のみ、文全体を聞き取らせるもの。

例) Who left the lights on?

What did this desk cost?

Who wrote the memo?

What are you doing for dinner?

Who is in charge of marketing?

What street is your office on? <sup>11)</sup>

.

.

.

.

.

.

疑問詞別に、質問文を集中して聞き取る力を養うのに有効である。

B. 問題を解く上で、key wordとなる語をブランクにして、一部の語句の穴埋め式ディクテーション。key wordを認識しながら、聞き取る力を養うのに有効である。

学生のディクテーションの結果を見ると、当然であるが、ディクテーションができていない問題の正解率は高い。問題はディクテーションができていないのに不正解の場合だ。例を挙げる。ある学生は質問文、Who is the new secretary?を完全にディクテーションできていたが、選択した答えは不正解であった。選択肢は

(A) A secretarial school graduate.

(B) The paper is full of news.

(C) I have a new secretary. <sup>12)</sup>

正解は(A)であるが、その学生は(C)を選んだ。(C)は質問文にあるnew secretaryという語を含むが、Who is the new secretary?の答えにはならない。new secretaryという語を正確に聞き取ったが故に、(C)を選んでしまったのだろう。この場合、第1点は、同じ単語が聞こえても、内容から判断して答えを選ばなければならないこと、第2点は、事前に説明しておいたgraduate (n.) 卒業生の意味を確認しておくように指導するとよい。ディクテーションは聞き取ることへの集中力を養い、音の識別をどの程度学んだか確かめることができると共に、その後の指導の対策も示唆する。

## ③ Check-up Activity

授業では、TOEICの問題を取り組んだ後、すべきこと、あるいは家庭学習としてすべきことを指導した。Check-up Activityとしては、今度は、スクリプトを見ながら、リスニングのテープを聞く。この際、自分が聞き取れなかった箇所は、実際、音声的にどう読まれているか、チェックしながら聞く。そして、次には、再びスクリプトを見ずに、リスニングのテープを聞き、どれだけ聞き取れる箇所がふえたかチェックする。田島穆によると、スクリプトを見ながら、聞き取れなかった箇所をチェックする際、「学習者がそれぞれ聞き取りにくいと思う部分や自分の発音と異なると思う部分にアンダーラインなどの印をつけさせ、次にその印をつけた部分に特に注意しながら聞かせるようにするとよいであろう」という方法を紹介している。<sup>13)</sup> この方法は、音声に不慣れな箇所を認識させると共に、実際の聞こえ方を認識させる上で有効である。

#### 6) 授業以外で

Jeremy Harmerによると、授業以外の家庭学習では、学生が自分で聞こうとする教材を自分で選ぶ時、リスニングの活動を劇的に動機づける、と言っている。<sup>14)</sup>

学生には時間が取れる冬休みに、リスニングの家庭学習を課した。リスニングの教材としては、授業の副教材である*Steps to success in TOEIC Listening 400* (以下*TOEIC 400*と略す)のPart II 及びIII、又、自分が選んだ教材も聞いてよいとした。冬休みの宿題の結果は、リスニング時間記録に記入し提出してもらった。

### 4. データの考察

#### 1) 考察の対象者

授業のまとめとして、授業と冬休みの宿題としての家庭学習を通して、学生のリスニング能力がどの程度、向上したか見る為に、以前取り組んだことのあるTOEICリスニング・セクションPart IIからの問題を解いてもらった。結果として、受講生 11 名中 5 名が正解率を伸ばした。その 5 名の学生は、10 %から 20 %の範囲で、正解率を上げた。5 名の中で最も正解率が高かった学生は、70%以上の正解率だった。どういふ状況、方法がリスニング能力を向上させたか考察する為、対象者を正解率が伸びた 5 名とした。

#### 2) 考察方法

- ① 日頃の英語との取り組み方を聞いた、5 名へのインタビュー
- ② 冬休みの宿題としての家庭学習との取り組み方
- ③ リスニングに関するアンケート

聞き方について (14 項目)、リスニングに対する心構えについて (5 項目)、聞き取りの状況について (4 項目)

- ①、②、及び③により収集したデータに基づき、考察した。具体的には、次の方法

を通して考察したものである。応答問題であるTOEICリスニング・セクションPart II 及びIIIを課題（例えば、疑問詞別に集中して聞くなど）をもって聞いた。授業の進め方として、事前にヒントを出し、ディクテーションにより、リスニングに集中した。聞き違えた箇所のチェックを行いながら、応答力を強化した。その授業と冬休みの宿題としての家庭学習によってリスニング能力がどう向上したか見ていった。

### 3) データ

#### ① インタビューによるデータ

授業と家庭学習の宿題以外に、日頃から英語を聞いていた3名と、授業と冬休みの家庭学習の宿題のみで、日頃から英語を聞いていなかった2名とに分かれた。

#### ② 冬休みの宿題との取り組み方によるデータ

冬休みの宿題として、5名の平均リスニング時間は、トータル約4時間半である。5名の共通点は、全員がTOEIC 400 Part II 及びIIIを聞いていることだ。

#### ③ リスニングに関するアンケートによるデータ

アンケートの結果を次に記す。(尚、複数回答、可)

#### ・聞き方について

1. スクリプトを見ずに聞いた。 (5名)
2. スクリプトを見ながら聞いた。 (3名)
3. 音声だけを流して聞いた。 (5名)
4. 全体をとらえるように聞いた。 (2名)
5. 細かい部分まで気をつけて聞いた。 (1名)
6. 授業のように、問題を解きながら聞いた。 (2名)
7. 聞き取れなかった部分を確認しながら、スクリプトを見て聞いた。 (2名)
8. 聞き取れなかった部分をスクリプトを見て確認の後、再度スクリプトなしで聞いた。 (1名)
9. 英語を英語で理解しながら聞いた。 (1名)
10. 英語を日本語で訳しながら聞いた。 (3名)
11. DVD又はビデオを、字幕なしで見た。 (なし)
12. DVD又はビデオを、英語の字幕で見た。 (なし)
13. DVD又はビデオを、日本語の字幕で見た。 (4名)
14. 音楽の英語の歌詞を、覚えて聞いた。 (3名)

#### ・リスニングに対する心構えについて

1. リスニング問題を解くのが、苦にならなくなった。 (なし)

2. リスニング問題を解くのが、苦になる。 (2名)
3. 英語を聞くことに、慣れてきた。 (3名)
4. 日頃から、もっと英語を聞きたいと思うようになった。 (4名)
5. 日頃から、英語を聞くことが、習慣になった。 (1名)

・聞き取りの状況について

1. 単語がいくつか聞き取れる。 (5名)
2. フレーズの固まりで聞き取っている。 (5名)
3. センテンス(1つの文)全体を聞き取っている。 (3名)  
(完全に聞き取れていなくとも、可)
4. 対話の場合、対話全体が、大体聞き取れる。 (2名)

4) 考察

① インタビューによる考察

日頃英語を聞いていた習慣があるなしにかかわらず、授業と家庭学習の宿題を通して、リスニング能力が向上し得ることがわかる。即ち、授業及び冬休みの宿題自体が少なくとも正解率を伸ばした5名にとっては有効であったと言える。

② 冬休みの宿題による考察

5名の間で聞き方には差があるが、トータルで平均4時間半聞いた結果、正解率が伸びたということは、確かに、リスニング力を伸ばすのに、英語を家庭でも聞くことが有効である。

5名共がTOEIC 400のPart II及びIIIを宿題として聞いている。TOEICのPart II及びIIIはコミュニケーションにおける、応答能力の感覚を磨き、なおかつ、リスニング能力を伸ばしている、と言える。

1月中旬に、再び、同じ練習問題を解いてもらった結果、正解率が最も高かった学生は、冬休み前の正解率から約20%アップし、70%以上の正解率となった。その学生は冬休みの間、毎日、宿題として課したTOEIC Part II及びIIIの応答問題を長い間、聞いていたことがわかった。

③ アンケートによる考察

A. 聞き方

全員がスクリプトを見ずに聞いているが、リスニングに集中する為、又知らない内容を聞き取る力を養う為のステップである。又、3名がスクリプトを見ながらも聞いているが、実際の英語が音声としてどう話されているのか知るのに必要なステップである。

全員共通の聞き方である、音声だけを流して聞くことであるが、これは、英語本来のリズムやイントネーションに慣れていく効果があると考えられる。

3名が英語を日本語で訳しながら聞いている。日本語が母国語の私達には仕方のないことかもしれない。但し、いちいちきちんと日本語に訳しながら聞くのではなく、概念、イメージを日本語で浮かべる程度にとどめたい。1人、英語を英語で理解しながら聞いた、と答えている。その学生はインタビューで日頃、英語を聞く習慣がなかったと答えている。従って、授業と冬休みの宿題を通して、英語にとっても馴染んできたと言える。やはり、英語のイメージで聞き取れるのは理想だ。

5名の内の3名は音楽の英語の歌詞を覚えて聞いている。先にも述べたように、自分で選んだ曲という点において、動機づけとして効果的である。又、趣味を英語の勉強に生かし、かつリスニング能力を伸ばすのに有効な方法である、と言える。

#### B. リスニングに対する心構え

3名が英語を聞くことに慣れてきた、と答えている。興味深いことに、その内の2名は、インタビューで日頃特別英語を聞いていなかったと答えた学生だ。授業と冬休みの宿題を通して、英語を聞くことに慣れてきた、ということだ。又、4名までもが、日頃からもっと英語を聞きたいと思うようになっている。英語を聞き慣れていない者にとって、英語を聞くというのは、ある種、恐怖感のようなものを伴う。授業と冬休みの宿題を通して、英語を聞くことへの自信と励ましを与えることは、ある意味、リスニング能力向上への大きな目標である。又、リスニングに対する心構えが前向きであるということは、リスニング能力を向上させた要因の一つと言えよう。

#### C. 聞き取りの状況

正解率が伸びた5名は、全員が一つ一つの単語のみでなく、少なくとも、フレーズの固まりで聞き取れるようになったことがわかる。又、3名までがセンテンス全体を聞き取っており、2名は対話全体を大体聞き取っている。山根繁によると、「学習者の聴解力レベルが上がるにしたがって、聞き取りの範囲がword(morpheme)→phrase→clause→sentence→discourseと次第に広がってくる」とある。<sup>15)</sup> このことは、5名が平均的に、対話全体を聞き取るようになるまでの過渡期の段階に位置し、リスニング能力がまだまだ伸びていく余地を残していると言える。又、対話全体を聞き取れるようになるまでの過渡期の状態まできている学生、あるいは、対話全体を聞き取れる状態まできている学生がリスニング力を伸ばしていることがわかる。

#### まとめ

TOEICリスニング・セクションPart II 及び IIIの問題を取り組んできて、11名中5名のリスニング能力の向上をみた。正解率が最も高かった学生は、冬休みの間、毎日、宿題とし

て課したTOEIC Part II 及び III の応答問題を長い間、聞いていたことがわかった。

5名の共通点は、宿題としての家庭学習においても、授業で行っている方法と同様のやり方で、応答問題のTOEIC Part II 及び III を聞いた。その結果として、一つ一つの単語を聞き取るレベルを超えて、対話全体を聞き取れるレベルになった。授業と学生に課した宿題によって、長い間、応答問題を聞き続けた結果、リスニング能力が伸びた。

応答問題のPart II 及び III は、自然なコミュニケーションに必要な応答能力を強化する、リスニング能力の向上に半年間で、受講生の約半数にとっては効果があったと言える。

最後に、2項目に限り、11名全員からのアンケート結果を記したい。英語を聞くことに慣れてきた(5名)。日頃から、もっと英語を聞きたいと思うようになった(10名)。これは特筆すべきことである。最終的には、学生が英語に馴染み、もっと英語を聞きたい、と思うようになることが、リスニング能力への向上心につながることになり、それが教育的意義だと考える。その意味では、本研究はTOEICリスニング・セクションPart II 及び III による、英語リスニング能力向上への試みであると共に、有意義であった。

#### 引用文献

- 1) 小池生夫編. 『英語のヒアリングとその指導』. 大修館書店. 1993. p. 259.
- 2) *TOEIC friends*. 1月号. 2203. 国際コミュニケーションズ. p. 57.
- 3) *TOEIC friends*. 7月号. 2002. 国際コミュニケーションズ. p. 87.
- 4) *Ibid.*
- 5) *Ibid.* p. 88.
- 6) 『ロングマン完全パックTOEIC TEST入門編』. ピアソン・エデュケーション. 2001. 解説書. pp. 64-69.  
George W. Pifer. *TOEIC SHORT LISTENING COURSE*. SEIBIDO. 2001. pp. 15-38.
- 7) 小池生夫編. 『英語のヒアリングとその指導』. 大修館書店. 1993. p. 259.
- 8) R.C. スカーセラ/R.L. オックスフォード著. 牧野高吉 訳・監修/菅原永一ほか訳.  
『第2言語習得の理論と実践タペストリー・アプローチ』. 松柏社. 1997. p. 205.
- 9) George W. Pifer. *TOEIC SHORT LISTENING COURSE*. SEIBIDO. 2001. p. 28.  
Teacher's Manual. p. 30.
- 10) ウィルガ・M・リヴァース著. 天満美智子/田近裕子訳. 『外国語習得のスキルーその教え方一』. 研究社. 1995. p. 129.
- 11) 『ロングマン完全パックTOEIC TEST入門編』. ピアソン・エデュケーション. 2001. 解説書. pp. 64-65.
- 12) *Ibid.* p. 65.
- 13) 小池生夫編. 『英語のヒアリングとその指導』. 大修館書店. 1993. p. 273.

- 14) Harmer, Jeremy. *THE PRACTICE OF ENGLISH LANGUAGE TEACHING*. Pearson Education Limited. England. 2001. p. 228.

Extensive listening will usually take place outside the classroom, in the students' home, car, or on personal stereos as they travel from one place to another. The motivational power of such an activity increases dramatically when students make their own choices about what they are going to listen to.

- 15) 山根繁. 『英語音声とコミュニケーション』. 金星堂. 2001. p. 175.